

目次 (62-76) 節

76	75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62
D R E A M、 夢	こんな日は寝るにかぎる	三十点あればいい方だ	今頃あの子は寝ているなあ	いつも同じ事を言っている	何やあ、そんなのあかへんわあ	むなしく消えて行く様な気分	何もしたくない気持	別にあってもいいではないか	今の時間を未来の僕に	僕はどちらを取るだろうか	へえさすが余裕やなあ	そう思いつつ目が重くなつて来た	他人のものはそうは行かない	一度坊主頭にしようかなあ
342	338	336	332	326	316	312	310	300	298	294	286	280	276	274